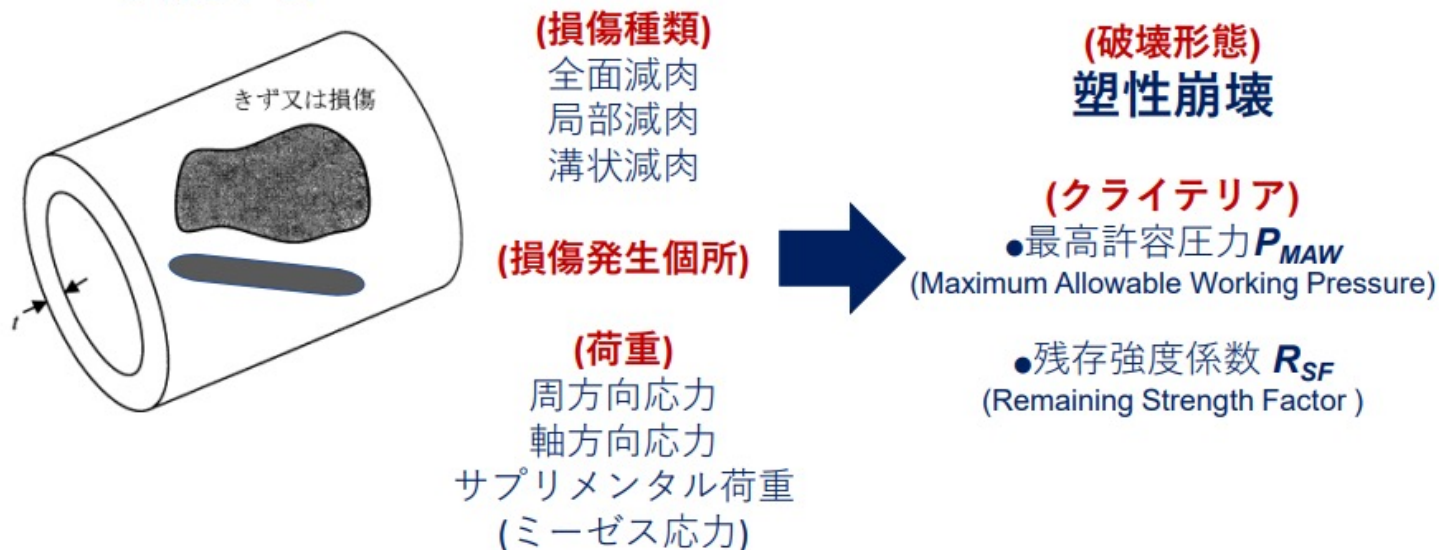


圧力設備等の経年劣化状態を定量化し、破壊力学的観点から評価を行うことによって、設備が安全に供用できることを判定する手法です。

供用適性評価を行うためには、対象設備の仕様、設計、施工、材料、溶接、検査といった幅広い知識に加え、煩雑な計算が必要ですが、uni-Fitnessを利用し、当社の資格を有するコンサルタントが支援することで容易に評価を実施いただけます。

減肉損傷が発生した場合、規定の**残存強度の有無**により継続供用可否を判定する。



2022年4月1日に「高圧ガス設備の供用適性評価に基づく耐圧性能及び強度に係る次回検査時期設定基準(KHK/PAJ/JPCA S 0851 (2022))」が改正されました。その中の附属書5Bには、減肉評価区分Ⅱの供用適性評価を日本溶接協会規格WES2820に基づいて行う場合が規定されています。